

授業概要

航空輸送事業および関連航空事業の経営戦略と、経営戦略にとっての制約要因である市場規制制度について、その経緯、現状、課題を論じる。一般的な航空についての「お話」ではなく、経営学と経済学の双方をベースとした理論的・政策的な授業であるため、受講者は、それらの基礎的な考え方（たとえば、パレート最適、市場の失敗、非対称規制、ラムゼイ・ルール、ピークロード・プライシング、戦略ゲーム理論、CS（Customer Satisfaction）戦略、ヒューマン・リソース・マネージメント等々）について理解していることが望ましい。

授業計画

第1回	イントロダクション（航空各事業の概略、各市場構造の概略）
第2回	「航空（aviation）」の全体像概観（市場・需要・供給）
第3回	1. 航空サービスの供給資源 航空機の発達と航空市場の発展（イカロスからステルスまで）
第4回	航空機産業（YS11を知っていますか？）
第5回	労働資源の特徴（コンビニ店員からBA会長まで）
第6回	・空港の種類と機能（農道空港からハブ空港まで） ・航空管制・航空通信（手旗信号から衛星まで）
第7回	空港と航空管制の組織と経営（世界はバス会社が空港を買う時代）
第8回	世界の民営化空港の経営戦略、空港の企業価値
第9回	2. 航空輸送市場の制度と競争 航空自由化の流れ（コンテスタブル・マーケット）
第10回	規制緩和と自由化の波（スチュワーデス受難の時代）
第11回	国際航空のオープンスカイ（国際航空の制度・政策の変遷）
第12回	質的規制の功罪（安全と環境）
第13回	LCC（Low Cost Carrier）vs FSC（Full Service Carrier）の競争（スカイマーク誕生秘話）
第14回	航空輸送事業の所有・経営形態（M&A、アライアンス）
第15回	プライシング戦略、CS：Customer Satisfaction 戦略
第16回	期末試験

到達目標

航空輸送市場のみならず広く航空全般について、その市場特性や需要の特性、供給要素（航空機材、空港、管制、航空従事者）の特性等について基礎的な講義を行なう。しかし、これらの知識の提供自体は本講義の主旨ではない。大学で学ぶべきことは、知識ではなく、経営・経済の基礎的なメカニズムと論理的なものの考え方である。知識は陳腐化するし、会社に入ってから学べばよい。たとえば、「全日空のIATAコードは？」という知識は、本を読むなりWebで検索すればわかることであり、大学の講義で教わるべきことではない。IATAコードの役割はなにか、なぜそのようなコードが必要なのか、を考えることによって、航空サービスという財の経済的な本質を論理的に理解すること、および、それを通じて論理的なものの考え方の重要性を身につけることが重要である。すなわち、本講義の目的は、航空に関する基礎知識の説明を通じて、就職にむけての思考回路・考え方の準備体制を整えることにある。その意味で、航空という分野はあくまで材料である。本講義の最終到達目標は、航空の幻想にとらわれず航空市場を正しく把握することである。

履修上の注意

学生と講師によるディスカッションを本講義では大切にしたいと考えている。

予習・復習

★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。

評価方法

1) 期末試験(50%) 2) プレゼンテーション(30%) 3) リアクションペーパー(20%)

テキスト

初回に指示する。

また、教員オリジナルの資料も使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。必要に応じて、授業後に配布可能なスライドを配布する。